



「新ウイルス時代」を迎えて

新型コロナウイルスを封じ込めようと世界中が躍起になっているにもかかわらず、感染の拡大は続き、「当たり前」のように思っていた私たちの日常生活を奪っている感のある昨今です。この時期、「人間には都合のよくないコロナウイルスも多様性の一つ。登場してしまったからには共存するしかない。」解剖学者の養老孟司氏の「読売新聞/解説」（3月28日）に掲載された論考と、「優しいだけでは国民の命は守れない」という櫻井よしこ氏のコラム「週刊新潮」（4月9日号）が目にとまりました。

まずは読売新聞の養老氏曰 ◎しばらくしたら収まると思っていたけれど、一気に広がったね。症状が軽いから広がるんですよ。ウイルスは、生きて細胞がないと増えない。だから、宿主である人が死んでは困る。新型コロナの場合、感染しても風邪のような症状だけで治る人が今のところ多いので、知らないうちに人に感染させてしまう。◎ここまできると、即効策はないでしょう。ただ、爆発的な患者急増は医療崩壊を起こすので、ワクチンが出来る迄いかに感染を遅らせるかが課題になる。◎みんな生き物を軽く見ているんだよ。自分という人間のことがお留守になっている。その人間には、同じウイルスに感染しても体質や遺伝的に亡くなる人もいれば、元気な人もいる。それが生物多様性です。人間には都合のよくない新型コロナも多様性の一つ。登場してしまったからには、共存するしかない。◎敵だから潰せという話になると、外出できず、人とも会えず、経済は止まる。世の中も自然も、思うにまかせぬものですから、起こったことはしょうがない。その結果をいかに利用し、生き方を見直すかで先行きは違ってくる。



次は週刊新潮で櫻井氏曰 … 東京都知事の小池百合子は緊急会見し、不要不急の外出自粛を強く要請した。すると不要不急とは具体的にどういう場合か、疑問視したつまらない新聞もあった。具体的に教えてもらわなければそんなことも分からないのか。普段自由に生きている幾千万の国民、都民に対して、不要不急を具体的に示せとは、大人の問いとは思えない。一人一人が自分で考えて判断することだろう。…スペインから「…ワクチンもない、止める方法もない。一人一人の行動が、コロナに打ち勝つ唯一の方法です。今は自宅にいて待機することです」と“ステイホーム”のメッセージを発信したサッカー選手の香川真司氏は思慮深く、格好よかった。（クラスターの発生源となったといわれる）阪神タイガースの藤浪晋太郎選手も京都産業大学の学生たちも、あんな風に格好良い若者であってほしい。…

いよいよ、日本も「緊急事態宣言」が発令される事態となりました。ウイルスとの戦いは国民全員の協力なくしては制することはできないと思うのですが…。